

一主婦からの新発田市政通信

皆様これで良いですか

発行者 青木三枝子（市政を考える会）

新発田市御幸町 3-1-21

TEL 0254-26-8334

平成 25 年 10 月 19 日 第 8 号

10 月 1 日付広報によって、やっと市民の皆様も駅前複合施設の全容がおぼろげながら理解出来るという段階ではないでしょうか。

新発田市の手法は他市と同様とは言えないと思います。図書館の大切さを知っている人の取る手法とは思えません。

1 他市と同様の手法で進められていますか

市長は 9 月議会で、駅前複合施設計画を、他市と何ら変わらない手法で進めているという主旨の事を述べられていました。しかし、私にはそうは思えません。他市の例を挙げ、その理由を述べます。

①塩尻市では、図書館が市役所の課として位置づけられると共に、一職員が司書資格取得後、責任者として複合施設計画を進めました。そして、機能面を考えるワークショップ開催の前に複合施設として、図書館を中心市街地活性化のために利用する事に対し反対の意をとる市民の理解を得る為に、2 年余りの時間がかけられました。図書館を含む複合施設構想から着工までに約 5 年をかけています。

②10 月 12 日、図書館についての講演会が生涯学習センターで開催されました。講演者は愛知県田原市図書館長をされていた森下芳則氏でした。配布された資料や講演の内容を元に田原市図書館の場合について述べます。人口約 3 万 7 千人（現在約 6 万 6 千人）の田原市の田原市図書館は、中心市街地にあり、すでにあった文化会館と体育館をつないだ複合施設の一つとして建設されています。この図書館は 100 年使う事ができ、人が集まり、街の誇りとなる様にと建設されました。図書館建設後は市民の高い評価を得ているようです。図書館建設は、外部から司書資格を持ち図書館勤務経験がある森下氏が呼ばれ、中心となって住民との対話、学習会、視察等を重ねると共に全て情報公開しながら計画が進められました。図書館構想委員会立ち上げから着工に至るまでに約 5 年をかけています。

①の塩尻市と②の田原市に共通しているのは、司書資格のある、また図書館勤務経験者が中心となって計画が進められた事です。そして住民の理解を得た上、約 5 年の時間をかけて計画が進められた事だと思います。田原市の場合は全て情報公開されています。

新発田市では、駅前複合施設計画を進めているのは、今年 4 月から部制廃止と共に、新たな課としてできた企画政策課です。市民への計画の説明は、7 月 6 日に開催された中心市街地活性化セミナーの中で初めて行われました。この時点で建設場所や内容、完成予定年度等ほぼ決定していたのです。以後、説明会は開催されず、あと数回のワークショップや審査会を経て、基本設計は今年 12 月初旬に決定し、着工はおおよそ 1 年後の予定です。

新発田市では、この計画を企画政策課全体で進めているとの事ですが、この課には図書館勤務経験者がいないのです。つまり、この計画を進める上での、塩尻市や田原市のような図書館の専門的な知識を持った核となる人がいないという事です。これまでの市の対応を見てもそれがよくわかります。計画は短期間で進められ、情報公開とは程遠く、未だ住民の理解は得られていないのです。

2. 市民への説明、市民との対話は十分ですか

新発田市の市民は旧新発田市民のみではありません。私の通信を読み複合施設計画を知った方が何故、他の支所等でも説明会がなかったのかと言われてしていると聞きました。市民の声を聞く為に、10 月 1 日付広報にあるように、最近になって提案箱が各地域に置かれました。しかし、機能について直接意見が言えるワークショップメンバーとして合併した周辺地域の方は入っているのでしょうか。

新庁舎建設や複合施設建設によって新発田市を変えようとするのであれば尚の事、旧新発田市民だけではなく、周辺地域の方々へもしっかり説明する必要があると思います。合併した地域の方と共に考え、共につくっていく図書館づくりや街づくりでありたいものです。安易な提案箱やパブリックコメント等ではなく、市民との対話が必要であり、もっと時間をかけて説明する必要があります。

3 複合施設基本設計審査会を傍聴しました

10 月 9 日に駅前複合施設基本設計審査会 2 回目が開催されました。審査会は行政側によって選出された委員 13 人であり、学識経験者、機能に対する精通者、施設利用者等から構成されています。この審査会の役割は、ワークショップ、各サークル、図書館評議会等からの意見をもとに駅前複合施設の機能の検討と基本設計案に関する審査を行います。その結果が市長に報告されます。

私は、ワークショップ 2 回目に参加した翌日に、この審査会を初めて傍聴しました。審査会では、先の塩尻えんぱ一く視察報告と前日に行われたワークショップの内容が報告されました。各委員から提案や質問が出されたのですが、その中で、何故、塩尻えんぱ一くが複合施設として成功しているのかという主旨の質問があり、行政側が答えに窮するという場面がありました。ワークショップメンバーと共に塩尻えんぱ一くを視察された他の委員が行政側に代わって、こうではないかと控えめに答えられるという状態でした。また、委員から設計者に対し準備不足や説明不足の指摘がある等、委員会として機能していないと感じました。

開館から 3 年目を迎えた塩尻えんぱ一くが、何故、現在約 200 万人の来館者を集めるまでになっているのか、行政側も視察に行ったのですから、しっかり審査会委員に説明できるようであって欲しいと思います。愛知県田原市図書館についても視察が出来ればよいと思います。成功している事例の検証が必要です。その結果が、新発田市駅前複合施設計画が中心市街地活性化に繋がるか否かの鍵になると考えるからです。今のままでは活性化しないと思います。